

令和元年度 事業実績報告書

令和2年6月

社会福祉法人

早島町社会福祉協議会

目 次

◆早島町社会福祉協議会 令和元年度事業総括 (P.1~5)

- ▶基本理念 (P.1)
- ▶経営理念 (P.1)
- ▶基本姿勢 (P.1)
- ▶社協・事務局重点項目 (重点目標) 及び達成度 (P.2)
- ▶介護事業部 セクション別重点項目 (重点目標) 及び達成度 (P.3~5)

◆令和元年度事業実績 (P.6~42)

▶活動内容 (P.6~)

I. 会務の運営

1. 役職員による法人運営 (P.6~)

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| (1) 理事会の開催 | (5) 役員の先進地視察研修の実施 |
| (2) 評議員会の開催 | (6) 人事管理制度の推進 |
| (3) 評議員選任・解任委員会の開催 | (7) 早島町内社会福祉法人
連絡協議会の設立準備 |
| (4) 内部監査の実施 | |

II. 地域福祉事業

1. 広報事業活動の推進 (P.12)

- | | |
|---|--------------------|
| (1) 社協だよりの発行 | (4) 早島の匠ミニギャラリーの開催 |
| (2) ホームページによる福祉情報の発信 | |
| (3) 地域福祉活動計画推進状況の周知と評価委員会の開催 ^新 | |

2. 会費・寄付・募金の収受 (P.13)

- (1) 住民会員・会費の募集
- (2) 一般寄付等の受納
- (3) 共同募金運動 (赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金) の推進

3. 住民参画型生活支援活動の検討 (P.15~)

- (1) 外出支援活動の検討
- (2) 暮らしの応援団活動の充実^新
- (3) 暮らしの応援カフェの運営支援^新

4. 福祉活動員活動の支援（P.18～）

- （1）福祉活動員協議会活動の支援

5. 地区福祉活動の推進（P.19～）

- （1）高齢者給食サービス活動の推進
- （2）ふれあい・いきいきサロン活動の推進
- （3）夏季一斉友愛訪問活動の実施
- （4）年末大掃除おたすけサービスの実施
- （5）地区福祉活動の支援

6. 福祉啓発（教育）の推進（P.23）

- （1）夏のボランティア体験の実施
- （2）福祉教育への協力支援
- （3）コミュニケーション麻雀の普及推進
- （4）障がい者作品展の開催
- （5）福祉映画会の開催

7. ボランティア活動の推進（P.27）

- （1）ボランティア保険の加入支援
- （2）福祉ボランティアグループ活動の支援
- （3）ボランティア活動に関する相談・調整
- （4）ボランティア活動の人材発掘^①

8. 福祉団体活動の支援（P.29）

- （1）福祉当事者団体活動の支援
- （2）福祉団体活動の支援

9. 在宅福祉サービス事業の実施（P.29～）

- （1）福祉有償運送事業の実施
- （2）福祉用具貸出サービスの実施

10. 福祉相談及び福祉サービスの利用援助（P.31）

- （1）生活福祉資金貸付事業の実施
- （2）日常生活自立支援事業の実施

11. 地域福祉センターの管理運営（P.31）

- （1）施設利用の促進
- （2）備品・用具の貸出
- （3）施設改修の実施

Ⅲ. 介護サービス事業

1. 居宅介護支援事業（P.32～）

- （1）介護保険-居宅介護支援事業の実施
- （2）介護保険-介護予防居宅介護支援事業の実施【早島町受託事業】

2. 通所介護事業 (P.34~)

- (1) 介護保険-通所介護事業の実施
- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施
- (3) 介護保険外サービス事業の実施
- (4) ボランティア協力(受入)の実施

3. 訪問介護事業 (P.37~)

- (1) 介護保険-訪問介護事業の実施
- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施
- (3) 介護保険外サービス事業の実施
- (4) 障がい者総合支援-居宅介護事業の実施
- (5) 障がい者総合支援-重度訪問介護事業の実施
- (6) 障がい者総合支援-移動支援事業(外出支援)の実施

▶補足／各種地域福祉事業の財源

1. 共同募金

◇一般配分金

- ❖社協だより発行 (P.12)
- ❖福祉活動員協議会活動の支援 (P.18)
- ❖夏のボランティア体験事業 (P.23)
- ❖福祉ボランティアグループ活動支援 (P.27)

◇特別配分金

- ❖暮らしの応援団活動の充実^新 (P.16)
- ❖地区福祉活動の支援 (P.22)

◇歳末たすけあい配分金

- ❖ふれあい・いきいきサロン活動の推進 (P.20)
- ❖夏季一斉友愛訪問活動 (P.21)
- ❖年末大掃除おたすけサービス (P.22)
- ❖福祉映画会の開催 (P.26)
- ❖障がい者作品展の開催 (P.26)
- ❖福祉当事者団体活動の支援 (P.29)

2. ほほえみ基金

- ❖社協だより発行 (P.12)
- ❖早島の匠・ミニギャラリー (P.13)
- ❖福祉活動員協議会活動の支援 (P.18)
- ❖ふれあい・いきいきサロン活動の推進 (P.20)

3. 地域福祉活動基金

- ❖地域福祉活動計画推進状況の周知と評価委員会の開催^新 (P.13)
- ❖暮らしの応援カフェの開催 (P.17)

▶本会の基本理念

お互いが支えあい 安心して 幸せに暮らせる 住みよい地域をつくります

▶本会の経営理念

本会役職員は、基本理念に則り地域福祉事業の推進と介護保険事業の充実・発展を図るとともに、安定した法人運営に心がけてまいります。

▶本会の基本姿勢

高齢化の進展と制度の多様化は本会の経営にとっても大きな課題ですが、新たな事業展開の契機として捉え、地域福祉事業と経営基盤である介護保険事業・総合事業の相乗効果が図れる法人運営を行ってまいります。

地域福祉事業では、平成32年度改訂予定の「地域福祉活動計画」について進捗評価を行うとともに、早島町や関係団体との協働体制により、地域支え合い活動、生活支援サービス、担い手育成等に努めてまいります。

介護保険事業では、30年度からの第7期介護保険制度のもと、介護予防・日常生活支援総合事業の進展や人材確保等により、経営上は厳しい環境が続きますが、事業間のいっそうの連携により収支の改善に努めてまいります。地域福祉は、公的制度と互助活動等がより補完的な関係として求められているため、車の両輪である行政とのパートナー関係を強め、利用者や町民に良質で安心感のあるサービスや情報を提供してまいります。これらを総合的に展開していくため、社会福祉法人に求められる地域貢献、利用者のための環境改善はもとより、職員の安心と創意工夫が発揮できる働き方改善を進め、組織の適正な規律のもと一人ひとりが足元を固め、信頼される法人運営に努めてまいります。

(平成31年度事業計画書より抜粋)

■ 社協・事務局重点項目（重点目標）及び達成度

事務局重点項目（重点目標）	達成度
<p>1) 地域福祉活動計画に基づく福祉活動・事業の推進</p> <p>『はやしまほっとプラン』の5年目の事業活動として、昨年度、組織化したゴミ出しや買い物支援等の住民主体の生活支援活動団体の活動の安定化とボランティア等の担い手の育成に努めます。また、昨年度延期となった『第2次はやしまほっとプラン』策定に向けた現プランの評価作業に着手します。</p> <p>加えて、町内における社会福祉法人連携による地域貢献を進めるべく、昨年度準備会を設置した同法人連絡協議会の設立を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『暮らしの応援カフェ』を継続開催。勉強会を開始し、さらなる住民参画と町域における生活支援活動の定着を図った。また、金田・下野地区をモデル地区として福祉活動検討会を設置。 移動スーパーとの協働で地区別に2月から買い物サロンを開催（8地区／利用者約100名）。地区の生活支援活動の具体化に向け、地区における実践活動を試行開始した。 前年度から全6回の準備会を経て、11月に社会福祉法人連絡協議会『ほっとけんネット早島』を設立。また、3月に地域貢献パンフレットを発行。町民へ各法人の社会資源を紹介した。 『はやしまほっとプラン』の評価作業は、住民や医療福祉介護関係者による評価委員会を設置。3回に渡る委員会において、進捗状況の評価と課題を整理することができた。（A）
<p>2) 職場環境の再構築による円滑な業務推進</p> <p>計画人事での体制安定を図ってきましたが、昨年度は職員の退職が発生し、部署内体制の立て直しが急務となっています。法人運営、施設管理等の総務、経理事務や労務管理、地域福祉推進の業務を少人数の兼務で行う事務局体制において、職員相互間の連携や協力関係は不可欠であり、業務分担のあり方に留まらず、個々の職員が孤立せず補完し合える雰囲気作りを含め、改めて新体制での円滑な業務推進に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 減員体制の中、新任職員を迎え、業務の可視化や役割分担と期限の明確化により、業務の漏れや遅滞のないよう「業務推進状況表」の運用を開始。所属職員が主体的に情報共有を行いながら、業務の進捗状況が管理できる仕組みを構築した。 職員の不安定な勤務状況から経理や一部事業の準備に遅滞が発生。部署内の職員間の葛藤解決を図るため、7月から幹部や他部署役職者へ状況の定期報告の場を設け、課題への組織的かつ具体的な関与を模索するも功を奏さず。部署内で葛藤を抱えながらも業務補完を継続。内部統制のあり方が課題。（C）

<達成度基準>

S：目標をはるかに上回る（120%以上）

A：目標を達成し上回る結果（105%以上120%未満）

B：概ね目標どおり期待水準（95%以上105%未満）

C：目標をやや下回る（80%以上95%未満）

D：目標をかなり下回る（80%未満）

■介護事業部 セクション別重点項目（重点目標）及び達成度

	介護事業部重点項目（重点目標）	達成度
居宅介護支援	1)特色ある支援展開と地域に向けた事業所広報 引き続き「住民協働の生活支援活動」の協議に参画し、現場ニーズの抽出・調整を行い、利用者や家族の生活課題解決に努めます。 また、利用者の『生きがい』や家族の『繋がり』づくりに焦点を合わせた事業所独自の社会参加・交流機会の創出に努めます。加えて、地域に根差した事業所を目指し、実施した取り組みや活動を、地域・住民向けに発信する機会を積極的に設けます。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局が主導する生活支援活動の場で、利用者の個別ニーズを発信。実際の活動現場にも立ち会う等、潤滑役を果たしながら、積極的に利用者や家族の生活課題解決に努めた（新規10名及び継続含め年間107件仲介）。 ・認知症啓発を目的としたリレーイベント『RUN伴』に事業所としてエントリー。また、準備会を独自に企画し、利用者や家族、住民が交流する場を創出。実施した取り組みを、SNSでの情報発信に加えて、福祉映画会で資料配布する等、地域・住民向けにも福祉啓発と情報発信を行った。（A）
	2) より働きやすい職場環境の整備 介護支援専門員の担当件数が低迷したにも関わらず、時間外労働が恒常的に発生しています。業務改善の余地があるものと捉え、多角的に問題点を再検証し、より良い職場環境と風土を整えます。 また、介護予防支援の課題・悩みの共有化が円滑に行えるよう、相談しやすい環境基盤を築き、個人にかかる心理的負担の軽減を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働の原因を職員の意識調査や、月次労働時間・作業をデータ化して検証。また、多忙時に職員間で行える業務フォローとして、ペアチェック作業の変更や、外部会議の出席者調整等を積極的に行い、業務停滞の慢性化予防に努めた。 ・総合事業の理解を深める内部研修の開催に加えて、個別ケア会議に全職員が関わり、介護予防支援の課題や悩みを相談しやすい環境基盤を整備した。実務における手順の確認や、点検方法の確立は着手できず、課題を残している。（B）
	<運営状況総括> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護認定者の新規契約件数は、前年度比1件増の54件。契約解除件数は67件（前年度+1件）。職員の療養に伴い、新規受け入れが困難な時期あり、月平均請求件数は3件減少し、187件であった。 ・契約解除件数の内訳は、入所21件、永眠22件、長期入院12件、軽度化（要支援）が7件。他は転出等。 ・要支援認定者は新規に11件受入れ。11件が契約解除し、内8件が重度化（要介護）、他は受託元へ移管。 ∴令和元年度収支差引額：1,488千円（平成30年度収支差引額：2,087千円）	

<達成度基準>

S：目標をはるかに上回る（120%以上）

A：目標を達成し上回る結果（105%以上120%未満）

B：概ね目標どおり期待水準（95%以上105%未満）

C：目標をやや下回る（80%以上95%未満）

D：目標をかなり下回る（80%未満）

	介護事業部重点項目（重点目標）	達成度
デイサービスセンター	1) 利用者・家族の満足度の向上 引き続き、「水分補給」「運動」「口腔ケア」に重点を置いたケアを継続と基本的な介護技術の標準化を図ることで、元気で安全に利用していただける事業所を目指します。 また多様化する利用者の状況と、臨時利用や振替利用、送迎時間の変更など家族の状況に合わせた柔軟な受け入れ体制を整え、満足度の向上を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 「水分補給」「口腔ケア」は、特に援助の必要な利用者を職員間で共通理解が出来た。「運動」も集団では実施しにくい利用者に対して個別に歩行訓練に誘うなどの対応が出来た。 介護技術は、終業時のミーティングや職員への個別指導を継続的に行ったが、下半期、利用者数が増えて忙しくなると基本がおろそかになり我流になってしまったことがあった。 臨時や振替利用、送迎時間の変更はすべて対応できた。2月に行なったアンケートでは「安心して利用できる」「不便に感じることはない」という回答が9割以上であった。また、下半期では短時間利用の新規相談が複数あり、柔軟なサービス提供時間の設定が事業所の特色となりつつある。(B)
	2) 働きやすい職場環境の整備 介護事務支援ソフトの導入を行い、作業の効率化と記録の正確性の向上を図ります。記録時間の短縮によって生まれた時間を、利用者との対話に充てる事で、利用者にも職員にも、ゆっくり話が出来たという満足感が生まれ、職員にとって働きがいのある事業所を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 記録用の支援ソフトは、年度当初に導入できたが、リーダーとサブリーダーによる試用の段階から、職員全員での使用に至るまでに時間がかかり、年度内に記録を電子化する事が出来なかった。また、年度終盤は通常の手書きによる記録と、ソフトを使った電子入力を同時に行うこととなり、事務量は増加してしまい、職員の満足を得られるには至っていない。 利用者との対話は、全職員が、話す時間を持つ事を意識して取り組み、おやつの時間には席について利用者とは話をすることが習慣となり、対話の時間が確保出来た。(C)
	<運営状況総括> <ul style="list-style-type: none"> 通所介護と総合事業対象者をあわせた1日あたりの平均利用者数は25.9人（前年度比▲0.7人） 前年度に新規利用者の受け入れを抑制したことが影響し、利用者数が伸びなかった。 ∴令和元年度収支差引額：▲4,058千円（平成30年度収支差引額：▲5,302千円）	

<達成度基準>

S：目標をはるかに上回る（120%以上）

C：目標をやや下回る（80%以上95%未満）

A：目標を達成し上回る結果（105%以上120%未満）

D：目標をかなり下回る（80%未満）

B：概ね目標どおり期待水準（95%以上105%未満）

	介護事業部重点項目（重点目標）	達成度
ホームヘルパーステーション	1) 訪問介護に関わる様々な情報の取得と共有 昨年度に引き続き、専門知識を深めるため、また今後も変わり行く制度改正に備えることや視野を広げることを目的に、常勤職員が外部研修に積極的に参加し、内部研修でヘルパー全体に情報共有を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患、看取り、医療知識、介護技術（認知症）のテーマに焦点をあて、常勤・非常勤4人に割り振り各々が外部研修への参加や自己研鑽を行い、専門知識を深めることができた。 上記のことをまとめ、伝える内部研修は一部にとどまり、情報の共有が十分に行えなかった。 更に研鑽を積み、ヘルパー全体の知識・技術の向上に努めたい。(B)
	2) 安定したサービスの提供による利用者の満足度の向上と確保 これからも強みである地域性を活かした綿密な連携、迅速かつ柔軟な対応によって、より安心して「住み慣れた我が家」で過ごしていただけるよう支援するため、人材の確保を行うと共に介護技術等の職員研修を継続し、統一した介護サービスが提供できるよう努め、利用者を選んでいただける事業所を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 排泄介助を臨機応変に対応し、最後まで「住み慣れた我が家」で過ごしていただけた利用者が1件あった。 生活上の問題点を観察し、迅速に関係機関に報連相を行い、必要に応じサービスの見直しを提案することにより、QOLを損なうことなく安心して在宅生活を維持していただけた。 新任の登録ヘルパー1名確保することができたが、7月にっ出産し現在育児休暇中。 接遇や事例検討等の内部研修を行い統一したサービスができるよう心掛けた。(B)
	〈運営状況総括〉 <ul style="list-style-type: none"> 今年度は新規契約が18件あったが、中止・死亡・入所された方が16件あった。新規の利用者が伸びず、昨年度に比べ訪問回数が要介護、要支援合わせて302回の減少となった。 障がい福祉サービスは、移動支援1件増加、居宅支援1件増加。2月より重度訪問介護の新規利用者が1件あった。それに伴い訪問回数も昨年度に比べ245回増加となった。 介護保険外サービス事業は、昨年引き続き定期利用者に加え、急な受診や入退院の対応、ご家族が帰宅されるまでの見守り、要支援利用者の生活援助の追加利用など柔軟に対応したが、利用者数、利用回数は昨年を下回った。 ∴令和元年度収支差引額：▲3,085千円（平成30年度収支差引額：▲3,150千円）	

＜達成度基準＞

S：目標をはるかに上回る（120%以上）

C：目標をやや下回る（80%以上95%未満）

A：目標を達成し上回る結果（105%以上120%未満）

D：目標をかなり下回る（80%未満）

B：概ね目標どおり期待水準（95%以上105%未満）

◆令和元年度事業実績

I. 会務の運営

1. 役職員による法人運営

〔1〕理事会の開催

(1) 要 点

- ・地域福祉の推進を目的に、本会の定款に基づき、理事会6回を開催した。
- ∴本会の事業計画（1議案）および予算（当初予算1議案、補正予算2議案）、事業報告（1議案）及び決算報告（1議案）、諸規程の制定及び改廃等の本会の運営において重要な案件（14議案）について協議した。

(2) 実施結果

開催日／出席数	決 議 事 項
平成31年4月26日（金） ／理事10名（10名） ／監事2名（2名）	◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員選任候補者の推薦について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員会に諮る理事候補者の選定について
令和元年6月4日（火） ／理事9名（10名） ／監事2名（2名）	◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会平成30年度事業実績報告について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会平成30年度一般会計収支決算報告について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会定款の変更について ◇報告事項 ・夏のボランティア体験事業について ・夏季一斉友愛訪問活動について
令和元年6月21日（金） ／理事10名（10名） ／監事2名（2名）	◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会会長の選任について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会副会長の選任について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会が設置経営する施設長等の選任について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会資金運用責任者の任命について ◇指名事項 ・社会福祉法人早島町社会福祉協議会常務理事の指名について

<p>令和元年10月1日（火） ／理事10名（10名） ／監事 2名（ 2名）</p>	<p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員選任候補者の推薦について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員会に諮る理事候補者の選定について ◇令和元年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会一般会計第1次補正予算（案）について ◇報告事項 ・夏季一斉友愛訪問活動について ・夏のボランティア体験事業について ・社会福祉法人連絡協議会について ・第1次地域福祉活動計画評価委員会について ・社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員選任候補者選出・理事選任規程及び社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員選任候補者選出・理事選任規程内規について</p>
<p>令和元年12月20日（金） ／理事10名（11名） ／監事 2名（ 2名）</p>	<p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会役員等の報酬等に関する規程の一部を改正する規程について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員選任候補者の推薦について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会評議員会に諮る理事候補者の選定について ◇報告事項 ・令和元年度上期決算概要について ・住民福祉活動先進地視察研修の報告について ・年末大掃除おたすけサービスの活動状況について ・共同募金運動の実施状況について ・福祉映画会について ・『早島町地域福祉活動計画』評価委員会の進捗状況について</p>

<p>令和2年3月19日（金） /理事11名（11名） /監事 2名（2名）</p>	<p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会第三者委員の選考について</p> <p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会嘱託職員賃金規程の一部を改正する規程について</p> <p>◇令和元年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会一般会計第2次補正予算（案）について</p> <p>◇令和2年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会事業計画（案）について</p> <p>◇令和2年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会一般会計当初予算（案）について</p> <p>◇報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早島町地域福祉活動計画に関する評価（答申書）について ・共同募金実績報告について ・福祉映画会の報告について ・基金の状況について ・事務局長採用予定者の内定取消しについて
--	--

〔2〕評議員会の開催

（1）要 点

- ・地域福祉の推進を目的に、本会の定款に基づき、評議員会4回を開催した。
- ∴本会の事業計画（1議案）および予算（当初予算1議案、補正予算2議案）、事業報告（1議案）及び決算報告（1議案）、諸規程の制定及び改廃等の本会の運営において重要な案件（6議案）について協議した。

（2）実施結果

開催日／出席数	決 議 事 項
<p>令和元年6月20日（木） /評議員14名（21名） /監事2名（2名）</p>	<p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会平成30年度事業実績報告について</p> <p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会平成30年度一般会計収支決算報告について</p> <p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会定款の変更について</p> <p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会理事及び監事の選任について</p> <p>◇報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏のボランティア体験事業について ・夏季一斉友愛訪問活動について
<p>令和元年10月9日（水） /18名（21名）</p>	<p>◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会理事の選任について</p> <p>◇令和元年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会一般会計第1次補正予算（案）について</p> <p>◇報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季一斉友愛訪問活動について ・夏のボランティア体験事業について ・共同募金運動について ・社会福祉法人連絡協議会について

	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次地域福祉活動計画評価委員会について ・理事等選任規程、及び選任規程内規の改正について
令和元年12月27日（金） ／14名（21名）	<ul style="list-style-type: none"> ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会役員等の報酬等に関する規程の一部を改正する規程について ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会理事の選任について ◇報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度上期決算概要について ・住民福祉活動先進地視察研修の報告について ・年末大掃除おたすけサービスの活動状況について ・共同募金運動の実施状況について ・福祉映画会について ・令和2年1月からの評議員名簿について ・『早島町地域福祉活動計画』評価委員会の進捗状況について
令和2年3月26日（木） ／17名（21名）	<ul style="list-style-type: none"> ◇社会福祉法人早島町社会福祉協議会嘱託職員賃金規程の一部を改正する規程について ◇令和元年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会一般会計第2次補正予算（案）について ◇令和2年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会事業計画（案）について ◇令和2年度社会福祉法人早島町社会福祉協議会一般会計当初予算（案）について ◇報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・早島町地域福祉活動計画に関する評価（答申書）について ・共同募金実績報告について ・福祉映画会の報告について ・基金の状況について ・事務局長採用予定者の内定取消しについて

〔3〕 評議員選任・解任委員会の開催

（1）要 点

- ・地域福祉の推進を目的に、本会の定款に基づき、評議員選任・解任委員会1回を開催した。
- ∴理事会において推薦された評議員候補者（5名）について審議し、選任した。

（2）実施結果

開催日／出席数	決 議 事 項
平成31年4月26日（金） ／委員2名	◇評議員の選任について
令和元年10月1日（火） ／委員3名	◇評議員の選任について
令和元年度12月1日（火） ／委員3名	◇評議員の選任について

〔4〕内部監査の実施

(1) 要 点

- ・地域福祉の推進を目的に、本会の定款に基づき、監事会1回を開催した。
- ∴本会の事業実績報告書により業務執行状況を、決算書及び諸帳票により財務状況の監査を実施し、問題がなかったため監査報告書を作成した。

(2) 実施結果

開催日／出席数	決 議 事 項
平成31年5月22日(水) ／監事2名	◇平成30年度事業実績状況(報告書)の監査 ◇決算(書)及び諸帳票の監査

〔5〕役員の先進地視察研修の実施

(1) 要 点

- ・他市町村の住民主体の地区福祉活動先進地を視察し、本町における地区福祉活動のあり方を検討する機会とするため、住民福祉関係者と合同で先進地社協(瀬戸内市社会福祉協議会)へ視察研修を行った。
- ∴町老人クラブ連合会主催行事と開催日が重なり、研修参加者数が減少(前年度比▲21名)。
- ∴視察先の地区社協活動例を参考に、買い物支援活動等のヒントを得て、事後に8地区で実施。約100名の近隣住民が利用している。

(2) 実施結果

視察日程／参加者	視察先／主な研修項目
令和元年11月26日(月) [参加者] ・理事・監事： 2名 ・評議員： 4名 ・民生委員： 6名 ・福祉活動員： 26名 ・その他： 10名 合 計： 48名	◇視察内容 ・瀬戸内市社会福祉協議会が推進する「地区社協」活動 ◇参加者の関係づくり ・会食(長船サービスエリア) ・散策(特別史跡旧閑谷学校/和気町)

〔6〕人事管理制度の推進

(1) 要 点

- ・平成25年度から開始した人事管理制度の円滑な推進の為、第三者(コンサルティング会社)の助言を受けながら、人事管理制度運用検討会を6回行った。
- ∴前年度の大幅な赤字に対し、年度当初に介護部署の赤字解消目標数値を設定したが、役職者以上の数値に対する意識が低く、具体的な取り組みがみられず。半期決算時点で前年度に続く、確定的な赤字見込みとなり、下半期の収支改善策を部署別に設定したが一時的な取り組みとなった。役職者の経営意識の改善が不可欠急務である。

(2) 実施結果

◇人事管理制度運用検討会(全6回)

開催日／出席者数	協 議 事 項
令和元年 6月27日(木) ／10名	◇決算状況の分析と部署別目標数値化協議 ◇役職者の目標設定共有

令和元年10月 3日(木) /10名	◇目標進捗状況の共有
令和元年11月29日(金) /10名	◇中間収支決算報告
令和2年 1月 8日(水) /10名	◇考課者研修(考課者や面接者の心得・ケーススタディー)
令和2年 2月20日(木) /5名	◇人事評価集計結果の調整
令和2年 3月25日(水) /5名	◇人事評価集計結果の調整

〔7〕早島町内社会福祉法人連絡協議会の設立準備

(1) 要 点

- ・社会福祉法改定に伴い、従来以上に制度の狭間の福祉課題への対応や地域貢献が求められる中、前年度に引き続き、町内の社会福祉法人の連携組織の設立の準備を進めた。
- ∴町内の社会福祉法人(5法人)が参画する「早島町社会福祉法人連絡協議会」を設立した。
- ∴地域貢献パンフレットを作成発行し、町民全戸配布により社会資源の周知を図った。

(2) 参加法人名(運営施設名)

- ①社会福祉法人 戸川児童福祉会(早島保育園)
 - ②社会福祉法人 中野社会福祉協会(かんだ保育園・わかみや保育園)
 - ③社会福祉法人 敬仁会(特別養護老人ホーム白亜館・デイサービスセンター白亜)
 - ④社会福祉法人 リンク(早島地域生活支援センター・ヒトノワ・With 広場早島)
 - ⑤社会福祉法人 早島町社会福祉協議会(事務局・居宅介護支援センター・デイサービスセンター・ホームヘルパーステーション)
- ※④「社会福祉法人 リンク」は、オブザーバーとして参画。

(3) 実施結果

開催日/出席者数/会場	協 議 事 項
準備会(通算第4回) 令和元年 5月31日(金) /11名/早島保育園	◇社会福祉法人戸川児童福祉会の取り組む事業について ◇早島町内の児童分野における課題について ◇岡山県内における法人連携の取り組みと助成制度について ◇地域貢献活動への取り組みに向けて
準備会(通算第5回) 令和元年 7月30日(火) /11名/わかみや保育園	◇社会福祉法人中野社会福祉協会(わかみや保育園)の取り組む事業について ◇早島町内の生活困窮者世帯における課題について ◇早島町社会福祉法人連絡協議会規約について ◇今後の組織化に向けたスケジュールについて
準備会(通算第6回) 令和元年 9月25日(水) /9名/かんだ保育園	◇社会福祉法人中野社会福祉協会(かんだ保育園)の取り組む事業について ◇早島町社会福祉法人連絡協議会会則(案)について ◇連絡協議会設立に向けたスケジュールについて ◇早島町社会福祉法人連絡協議会設立式について

設立総会 令和元年11月22日(金) /12名/オアシス早島	◇役員の選任 ◇愛称について ◇早島町社会福祉法人連絡協議会会則(案)について ◇令和元年度事業計画及び予算(案)について ◇パンフレット内容について
第1回幹事会兼事業推進検討会 令和2年2月19日(水) /9名/オアシス早島	◇パンフレット内容について

II. 地域福祉事業

1. 広報事業活動の推進

〔1〕社協だより発行

(1) 要 点

- ・ 町民に対する社協活動や住民福祉活動等の情報提供手段として、広報誌「はやしま社協だより」を年4回発行。
- ・ ∴部署により情報発信に差があるが、福祉啓発の根本となる広報の重要性を全体で再共有する必要がある。

(2) 発行実績

- ◇第113号(夏号) 令和元年6月下旬発行(5,000部)
- ◇第114号(秋号) 令和元年10月下旬発行(5,000部)
- ◇第115号(新春号) 令和元年12月下旬発行(5,000部)
- ◇第116号(春号) 令和2年3月下旬発行(5,000部)

〔2〕ホームページによる福祉情報の発信

(1) 要 点

- ・ 地域福祉活動計画(ほっとプラン)に基づき、町内の福祉活動や本会の事業活動をホームページにより効果的に発信した。
- ・ 町内の福祉活動や本会の事業活動をFacebookによりリアルタイムに発信した。
- ・ ∴部署により情報発信に差があるが、福祉啓発の根本となる広報の重要性を全体で再共有する必要がある。

(2) 実施結果

○Facebook 年間投稿記事数

発信部署	発信件数(前年度比)
事務局	58件(+3件)
居宅介護支援センター	5件(▲13件)
デイサービスセンター	4件(+3件)
ホームヘルパーステーション	0件(±0件)
合 計	67件(▲7件)

〔3〕地域福祉活動計画の推進状況の周知と評価委員会の開催^⑧

(1) 要 点

- ・地域住民や福祉関係団体・機関への地域福祉活動計画（ほっとプラン）内容の周知や活動参画を求めることを目的に計画内容や進捗状況の説明を行う。
- ・評価委員会を設置運営。地域の住民福祉団体・地縁組織や保健・医療・福祉関係機関、行政関係機関、学識経験者、ボランティア・当事者組織等から選出された16名の委員と評価委員会を3回開催した。
- ∴評価委員会では、5か年の取組の評価を行い、2次計画策定に向けた課題や対策の方向性を見出すことができた。

(2) 実施結果

開催日	行事名/場所
令和元年 5月14日(火)	早島町自治会行政連絡会議/町役場
令和元年 9月29日(日)	ニュー早島自治会役員会/ニュー早島荘
令和元年10月23日(木)	金田・下野地区福祉活動検討会/西コミュニティセンター
令和元年11月14日(木)	第1回早島町地域福祉活動計画評価委員会/オアシス早島
令和元年11月28日(木)	早島町「在宅医療・介護」推進意見交換会/町中央公民館
令和元年12月19日(木)	第2回早島町地域福祉活動計画評価委員会/オアシス早島
令和2年 1月27日(月)	早島町民生児童委員協議会定例会/早島町役場
令和2年 2月 6日(木)	第3回早島町地域福祉活動計画評価委員会/オアシス早島
令和2年 2月 8日(土)	サロン矢尾/矢尾公民館
令和2年 3月 2日(月)	早島町老人クラブ連合会定例会/町役場

〔4〕早島の匠ミニギャラリーの開催

(1) 要 点

- ・地域福祉センターオアシス早島1階ロビーを活用し、町内住民やグループによるミニ二作品展を4回（前年度比▲2回）開催した。
- ∴一般住民の来館促進や本会の各種地域福祉事業の周知については、暮らしの応援団活動と赤い羽根共同募金「寄付つき商品地域支援プロジェクト」のみに留まった。

(2) 開催実績

区分	ジャンル	作者(出展者)	作品展示期間
団体	塗り絵 ・俳句	早島町デイサービスセンター	令和元年 4月 1日～ 4月30日
団体	水彩画	萌の会	令和元年 5月16日～ 7月10日
団体	絵手紙	絵手紙ボランティアやまびこ	令和元年 7月16日～ 8月 7日
個人	木工品	安藤 正明	令和元年 8月22日～ 9月24日

2. 会費・寄付・募金の収受

〔1〕住民会員・会費の募集

(1) 要 点

- ・社会福祉に関心を有し、本会の趣旨・事業に賛同した個人又は団体等の会員を募るものである。本年度の結果は下記のとおりとなった。
- ∴特定団体からの会費であり、広く会費を募集する方法を検討する必要がある。

(2) 実施結果

区 分	会員数	□ 数	金 額
賛助会費・団体	34件	1□	67,583円
合 計	34件	1□	67,583円

〔2〕 一般寄付等の受納

(1) 要 点

- ・一般寄付・満中陰志を受納し、その寄附金を地域福祉推進のための事業を実施するほほえみ基金事業の原資となる基金へ積立てを行った。
- ∴一般寄付は2件（前年度比▲4件）、満中陰志（前年度比▲4件）となった。

(2) 寄付金実績

区 分	件 数	金 額
一般寄付	2件	11,059円
満中陰志	11件	230,000円
合 計	13件	241,059円

〔3〕 共同募金運動（赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金）の推進

（※岡山県共同募金会早島町共同募金委員会事務）

(1) 要 点

- ・地域福祉の推進という目的のもと、共同募金の役割や使い道の周知を図り、「じぶんの町を良くするしくみ。」をテーマに様々な募金活動による呼びかけを行う。町民一人ひとりに対し活動を通じて「思いやりの心」掘り起こすとともに、「福祉のまちづくり」に参加できる仕組みである。また、共同募金の適正かつ効果的な助成や配分により、地域課題の発見や新たな支え合い構築など福祉活動を支援する。
- ∴赤い羽根共同募金は多くの募金種別において前年度に比べて減額となったため、各運動内容について再検討を行う必要がある。

(2) 実施結果

①赤い羽根共同募金実績

募金種別	募金額内訳	前年度比
戸別募金	996,152円	▲31,712円
街頭募金	14,691円	▲2,381円
学校募金	37,210円	▲68,247円
個人募金	10,000円	2,400円
法人募金	325,769円	▲56,631円
イベント募金	11,670円	▲13,830円
職域募金	103,037円	▲6,224円
その他の募金	52,201円	20,109円
通帳利息	6円	±0円
	1,550,736円	▲156,516円

②歳末たすけあい募金実績

募金種別	募金額内訳	前年度比
戸別募金	952,411円	7,527円
個人募金	0円	0円
その他の募金	0円	0円
通帳利息	1円	0円
	952,412円	7,527円

③共同募金運動推進活動

開催日	行事名	募金実績
令和元年 9月13日(金)	早島中学校街頭募金	5,467円
令和元年10月 1日(火)	早島駅前街頭募金	2,798円
令和元年10月 1日(火)	マルナカ早島店前街頭募金	2,175円
令和元年11月 3日(日)	いきいき広場街頭募金	4,251円
令和元年11月 3日(日)	いきいき広場イベント募金	11,670円

3. 住民参画型生活支援活動の検討

〔1〕外出支援活動の検討

(1) 要 点

- ・地域福祉活動計画(ほっとプラン)に基づき、平成27年度末から開始した町内の高齢者や障がい者の社会参加の促進を目的とした外出支援活動の検討を継続実施。
- ・福祉有償運送事業とサロン活動や給食サービス活動参加者の送迎活動について実施状況の共有を行った。
- ・実利用団体数は、不定期利用のサロンからの要望が減少(前年度比▲3団体)。給食サービスは新規追加(1団体)があった。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策で2月下旬からのサロンや給食サービスが中止となり、延べ運行回数(前年度比▲5回)は減少した。
- ・備中県民局から視察と取材を受け、「運転ボランティアくるりん」の活動が同局発行「高齢者の暮らしを地域で支える外出・移動支援サービス活動事例集」へ掲載された。

(2) 外出支援活動検討会の開催

開催日	主な検討事項
平成31年 4月16日(火)	・早島町が行う事業との連携について
令和 元年 5月14日(火)	・福祉有償運送事業の実施状況とサロン等送迎活動
令和 元年 6月11日(火)	・かんだ保育園とわかみや保育園の交流事業の協力の検討
令和 元年 7月 9日(火)	・福祉有償運送事業の実施状況とサロン等送迎活動
令和 元年 8月20日(火)	・サロン等送迎活動の在り方に関する協議状況報告について
令和 元年 9月17日(火)	・福祉有償運送事業の実施状況とサロン等送迎活動
令和 元年10月15日(火)	・福祉有償運送事業の実施状況とサロン等送迎活動
令和 元年11月19日(火)	・サロン等送迎活動の在り方に関する協議状況報告について
令和 元年12月17日(火)	・金田地区における住民主体の移動サービスの実施について
令和 2年 1月21日(火)	・備中県民局から登録不要の移送サービスの取材
令和 2年 2月18日(火)	・福祉有償運送事業の実施状況とサロン等送迎活動
令和 2年 3月17日(火)	・福祉有償運送事業の実施状況とサロン等送迎活動

(3) サロン等送迎活動実績

○実利用団体数；9団体

[内訳]サロン；3団体（▲3団体）、給食サービス；6団体（+1団体）

○延べ運行回数；188回（▲5回）

○延べ利用者数；955名（+7名）

〔2〕暮らしの応援団活動の充実^⑧

(1) 要 点

- ・ゴミ出しや買い物支援など、高齢者世帯等における生活課題に対応すべく、昨年度組織化した住民主体の生活支援活動団体の試行活動の充実を図る検討や調整、活動者募集を行う。
- ∴10月頃から金田・下野地区の福祉活動の検討に合わせた地区の生活支援活動との連携のあり方の検討や、2月から自治会と協働の移動スーパーの誘致による「買い物サロン」の試行活動開始により、登録応援団員の活動参加が増加（新規18名）。
- ∴定期活動延べ利用件数（前年度比+154件）及び不定期活動延べ利用件数（前年度比+7件）がそれぞれ前年度から増加した。

(2) 生活支援活動実績

○定期活動

支援内容	実利用者数	延べ利用件数	実活動者数	延べ活動者数	備 考
ゴミ出し	5名	232件	3名	264名	原則：可燃物
買い物代行	1名	23件	2名	23名	独居高齢
食事づくり	1名	9件	2名	10名	生活困窮親子
話し相手	2名	14件	3名	25名	独居高齢者・飲酒依存
合 計	9名	278件	10名	322名	

○不定期活動

支援内容	実利用者数	延べ利用件数	実活動者数	延べ活動者数	備 考
付添い支援	0名	0件	0名	0名	買い物・病院
家屋内整理掃除	7名	8件	15名	24名	可燃・不燃物・資源物
家屋等修繕	7名	13件	8名	24名	網戸取替・引き戸修理等
庭・植栽整備	4名	4件	6名	7名	花植替・畑整備・木伐採等
合 計	18名	25件	29名	55名	

○地区活動（買い物サロン）

地区名	購入者数	開催回数	実活動者数	延べ活動者数	備 考
金田（下野）	107名	8回	5名	33名	2月5日から開始
塩津	96名	8回	4名	25名	2月5日から開始
長津	35名	8回	1名	7名	2月5日から開始
片田	55名	8回	4名	16名	2月5日から開始
ニュー早島	38名	8回	2名	10名	2月5日から開始
備南台	57名	8回	1名	8名	2月5日から開始
真磯台	115名	8回	4名	24名	2月5日から開始
宮崎	32名	3回	3名	6名	3月11日から開始
合 計	425名	59回	24名	105名	

〔3〕暮らしの応援カフェの運営支援

(1) 要点

- ・ゴミ出しや買い物等の町民同士の支え合いの活動について、「はやしまほっとプラン」の指針の検証と試行を住民目線で行いながら、現実的な生活支援活動を模索する茶話会を開催する。原則として毎月10日に開催。
- ・町内の実態に基づく制度や社会資源の学習や障がい体験等、勉強会を新たに開催した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策で3月のカフェを中止したが、実参加者数(前年度比+7名)及び延べ参加者数(前年度比+3名)は前年度参加者数を上回った。

(2) 茶話会開催実績

開催日／参加者	主な検討事項
令和元年 4月10日(水) ／住民18名・専門職3名	・総会、試行活動報告、茶話会運営検討 等
令和元年 5月10日(金) ／住民18名・専門職2名	・試行活動報告・募集 等
令和元年 6月10日(月) ／住民19名・専門職4名	・試行活動報告・募集 等
令和元年 7月10日(水) ／住民16名・専門職5名	・試行活動報告・募集 等
令和元年 8月 9日(金) ／住民20名・専門職4名	・試行活動報告・募集 等
令和元年 9月10日(火) ／住民24名・専門職3名	・勉強会(高齢者疑似体験)、試行活動報告・募集 等
令和元年10月10日(木) ／住民31名・専門職2名	・地区連携協議、試行活動報告・募集 等
令和元年11月 8日(金) ／住民24名・専門職1名	・勉強会(シルバーセンター活動)、試行活動報告・募集 等
令和元年12月10日(火) ／住民23名・専門職3名	・忘年会、試行活動報告・募集 等
令和2年 1月10日(金) ／住民26名・専門職4名	・勉強会(移動スーパー事業)、試行活動報告・募集 等
令和2年 2月10日(月) ／住民23名・専門職3名	・勉強会(生活困窮者)、試行活動報告・募集 等
令和2年 3月10日(火) ／中 止	・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催を自粛。

(3) 参加者数

- 実参加者数：住民43名・専門職名15名
- 延べ参加者数：住民242名・専門職34名

4. 福祉活動員活動の支援

〔1〕福祉活動員協議会活動の支援

(1) 要 点

- ・各自治会町内会から選出された「福祉活動員」79名で組織する「福祉活動員協議会」の事務局として、福祉活動員の活動支援を行った。
- ・定例会を全体研修月以外に7回開催。各地区の福祉活動員の活動状況確認や見守り新鮮情報の回覧依頼、ボランティア活動への協力呼びかけを行った。また、援助活動に役立つ福祉知識や手法の提供を目的としたミニ講座を引き続き開催した。
- ・地域包括ケア推進に向け、その主要な立場にある介護支援専門員と民生委員との意見交換の場を設けた。
- ・:新型コロナウイルス感染拡大防止対策で2月全体研修会及び3月定例会を中止し、年度活動の振り返りが行えなかったが、期末アンケートでは、今年度も活動を通じ、福祉活動の必要性や取り組み姿勢に変容がみられた。

(2) 定例会等開催実績

開催日／参加者等	活動区分	主な内容等（研修テーマ）
平成31年 4月15日（月） ／18名	新任 研修会	社会福祉協議会の組織と事業 福祉活動員の役割
平成31年 4月25日（木） ／60名	総会	活動計画・予算の確認、役員の選任
令和元年 5月29日（水） ／50名	定例会	民生委員との意見交換（福祉マップ作成等） 熱中症予防について
令和元年 6月～ ／79名	実践活動	夏季一斉友愛訪問活動（70歳以上高齢者）
令和元年 6月27日（木） ／50名	定例会	サロンで活かせるレクリエーション
令和元年 7月25日（木） ／44名	定例会	認知症の方への対応について
令和元年 8月22日（木） ／39名	定例会	知っておきたい介護保険制度の概要
令和元年 9月26日（木） ／43名	定例会	身近な介護技術
令和元年10月16日（水） ／23名	交流会	グラウンドゴルフ交流会
令和元年11月20日（水） ／27名	視察研修	瀬戸内市社会福祉協議会の活動視察
令和元年12月2日～13日 ／20名	実践活動	年末大掃除活動（75歳以上高齢者世帯等）
令和2年 1月23日（木） ／37名	定例会	福祉用具の制度と紹介
令和2年 2月27日（木） ／中 止	全体研修	いざという時の救急法 ※中止
令和2年 3月19日（木） ／中 止	定例会	年度活動の振り返り ※中止

(3) 期末アンケート結果 [抜粋]

[設問] 近隣づきあいや福祉活動の必要性に対する認識について	回答者数	回答率
大変重要と考えるようになった	15名	27.8%
必要性の認識が高まった	30名	55.6%
何となく必要性を感じた	8名	14.8%
必要性を感じない	0名	0.0%

[設問] 今後の福祉活動について	回答者数	回答率
できるだけ地区や町内の福祉活動に協力していきたい	12名	22.2%
要請があれば地区や町内の福祉活動に協力していきたい	13名	24.1%
できる範囲で近所づきあいを大切にしていきたい	28名	51.9%
あまり近所づきあいはしたくない	1名	1.9%

※アンケート回収率：68.3%（54名/79名）

5. 地区福祉活動の推進

〔1〕高齢者給食サービス活動の推進

(1) 要点

- ・独居や高齢者世帯、障がい者等を対象として、給食ボランティアグループがバランスのとれた食事とふれあい交流の場を提供する。
- ・食材費等の助成や、活動を支援するためのアドバイスを行う。
- ・食中毒の防止を目的に、研修会の実施や食品衛生管理指導（チェック表の運用、衛生用品の支給）を継続して行う。
- ・3月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を中止したため、前年度と比較して延べ実施回数は減少（前年度比▲9回）となった。
- ・岡山県備中保健所の協力を得て、衛生研修を2回開催。事前に実際の調理現場で保健所職員による立会検査をした結果について振り返りを行い、衛生管理についての理解を深めた。

(2) 活動実績

団体名	利用者数	提供者数	延べ実施回数	延べ利用者数	延べ提供者数
クローバー	15	5	19	230	123
コスモス	26	13	20	373	200
スプリング	15	6	17	267	88
たんぽぽ	18	9	10	141	68
マスカット	18	6	10	170	58
ひまわり会	20	6	10	186	58
スマイル若宮	29	25	20	520	197
市場撫子の会	22	8	10	211	71
合計：8団体	163	78	116	2,098	863

(3) 連絡会等開催実績

①第1回/給食ボランティア連絡協議会（食品衛生研修）

開催年月日	令和元年8月27日（火）
開催場所	地域福祉センター「オアシス早島」2階調理実習室
参加者	19名（7グループ）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「食中毒の予防・手洗いについて」 岡山県備中保健所衛生課食品衛生班 主任 吉家 愛 氏 ・事務連絡（助成金手続き、衛生用品の配布等について説明）

②第2回/給食ボランティア連絡協議会（食品衛生研修）

開催年月日	令和元年10月18日（金）
開催場所	地域福祉センター「オアシス早島」2階調理実習室
参加者	20名（8グループ）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「衛生管理のふり返り ～衛生管理の現状と見直しに関する意見交換会～」 岡山県備中保健所衛生課食品衛生班 主任 吉家 愛 氏 主任 伊達 茜 氏 ・事務連絡（エプロンの購入、リフレッシュ旅行等について説明）

③給食ボランティアリフレッシュ旅行

開催年月日	令和元年10月28日（月）
行 先	広島県福山市方面
参加者	57名（8グループ）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・大島能楽堂（所作体験） ・日本料理鞆膳（盛り付け配膳学習） ・虎屋本舗曙本店（買い物）

〔2〕ふれあい・いきいきサロン活動の推進

(1) 要 点

- ・気軽にふれあい交流や仲間づくりができる場を提供する活動に対し、プログラム調整や活動費助成等の支援を行った。
- ・定額奨励金制度を廃止し、活動規模に応じた助成金制度に従い、活動費助成を行う。
- ・新たに小浜地区のサロン活動の立ち上げを支援する。
- ・延べ利用者数及び延べ協力者数は、前年度から減少。助成制度変更に伴う活動算定方法の変更と新型コロナウイルス感染拡大に伴う3月活動自粛が要因。
- ・サロン活動者研修会は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催を中止。

(2) サロン活動団体（合計24団体）

サロン名	開催場所	対象地域	延べ利用者数	延べ協力者数	実施回数	活動内容
四つ葉会前湯	前湯公民館	前湯・下前湯	130	136	11	茶話会、季節行事、体操、遊び、講話等
しゃべろうかい	宮崎公民館	宮崎	85	20	10	茶話会、創作活動、遊び、催し等
中山ふれあいサロンさつき会	中山集会所	中山	98	18	9	茶話会、運動、季節行事、遊び、講話、催し等
いきいきサロン市場	さつき荘	市場	108	79	10	茶話会、遊び、運動、催し、工場見学
弁天井戸端喫茶	弁才天公民館	弁才天	47	41	10	茶話会、歌、季節行事、講話等

サロン・ひだまり	備南台 公民館	備南台	181	129	14	茶話会、遊び、小旅行、 部会活動
なしず会	無津公民館	無津	78	10	10	茶話会、運動、季節行事、 奉仕活動等
日笠山さくら会	日笠山 公民館	日笠山	203	49	6	茶話会、季節行事、講話、 催し等
喫茶とよく	頓行公民館	頓行	148	77	10	茶話会、遊び、季節行事、 講話、創作活動等
いきいきサロン三軒地	三軒地 公民館	三軒地	84	28	12	茶話会、創作活動、講話、 催し等、季節行事
塩津いきいきサロン	塩津公民館	塩津	233	53	11	茶話会、催し、季節行事 遊び等
サロン市場健康促進の会	床田遊園地 市場公民館	市場	111	67	17	茶話会、運動、催し、講話、 季節行事等
いきいきサロン久々原	久々原 公民館	久々原	44	4	4	茶話会、運動、季節行事、 催し
片田ふれあいサロン	片田公民館	片田	101	48	9	茶話会、運動、講話等
舟本コミュニケーション クラブ	舟本早島	舟本	21	11	3	体操、講話等
喜楽亭	大谷荘	若宮	550	232	9	遊び、運動、講話、軽食喫 茶、催し、演奏会
ふれあいサロン樽島	樽島公民館	樽島	60	45	6	茶話会、体操、講話、工場 見学、演奏
金田いきいきサロンにじ	西コミュニ ティハウス	金田	171	50	11	茶話会、遊び、催し、講話 等
長津・畑岡ほっとサロン	いぶき荘	長津・ 畑岡	154	97	10	茶話会、運動、創作活動、 催し、工場見学
イトーピア早島サロン	イトーピア 集会所	イトー ピア	52	81	11	茶話会、運動、遊び、 季節行事等
サロン矢尾	矢尾公民館	矢尾	189	88	9	茶話会、運動、講話、遊び、 季節行事等
ニュー早島 にこにこサロン	ニュー 早島荘	N早島	122	96	10	茶話会、遊び、催し等
下野のんびり友の会	下野公民館	下野	63	15	6	茶話会、ｼﾞﾓ体操等
すまいるサロン小浜	3匹の子ブタ	小浜	10	21	3	講話、体験教室等
合 計 / 延べ利用者数2,898人 / 延べ協力者数1,511人 / 実施回数221回						

(3) 連絡会（研修会）開催実績

①第1回／ふれあい・いきいきサロン研修会

開催年月日	令和2年3月24日（火）
開催場所	地域福祉センター「オアシス早島」2階会議室
参加者	新型コロナウイルス感染拡大対策の為、開催を中止。
内 容	・「災害から考える平時の福祉活動」

(4) 助成金交付実績

487,800円（24団体）

【3】夏季一斉友愛訪問活動の実施

(1) 要 点

- ・70歳以上の方が居住する世帯及び年齢や同居の有無を問わず声かけが必要な要援護者を対象に、熱中症予防啓発と地域との関係づくりを目的に、民生委員・福祉活動員の協力を得て、全地区一斉の友愛訪問を行う。

(2) 活動実績

開催年月日	令和元年5月29日(水)から6月27日(木)
訪問対象者数	2,654人/28地区 ※平成31年4月1日時点で70歳以上の方
訪問活動者数	民生委員21名、福祉活動員79名
世帯実態概要	独居347名(世帯)、夫婦894名(約447世帯)
見守りの必要性	必要208名、不要2,446名

〔4〕年末大掃除おたすけサービスの実施

(1) 要点

- ・75歳以上の高齢者世帯の方、または障がい者世帯の方へおたすけ員を派遣し、年末大掃除の負担軽減を図った。おたすけ員としては、民生委員・福祉活動員・地域のボランティア等多くの住民の方々に広く協力を求めた。
- ∴申込者数(前年度比▲5名)及び活動者数(前年度比▲6名)が前年度から減少。『暮らしの応援団』活動で平時の支援が可能になったことが要因と考えられる。

(2) 活動実績

開催年月日	令和元年12月2日(月)から12月13日(金)
サービス実施世帯数	29世帯(高齢者世帯28件、障がい者1件)
おたすけ員協力者数	41名
おたすけ員協力者内訳	民生委員11名、福祉活動員20名、暮らしの応援団5名、ボランティア3名、社協登録ヘルパー0名、社協職員2名

〔5〕地区福祉活動の支援

(1) 要点

- ・地区会合へ参加し、地区住民協働で自治会単位での福祉活動の活性化やあり方を検討した。また、その福祉活動の検討や活動に対し、「赤い羽根福祉のまちづくり助成事業」により、活動助成を行った。
- ・その他、サロン活動や給食サービス活動等へ訪問し、地区福祉活動の支援を行った。
- ∴従来、福祉活動モデル地区だった片田地区を含め4地区で福祉活動の検討や具体的な活動立案や試行活動の支援をすることができた。
- ∴本会事務局及び居宅介護支援センターの専門職の地区訪問件数が大幅に増加(訪問回数:前年度比+52回、延べ訪問職員数:前年度比+79回)。昨年度は、約9か月にわたる倉敷市災害ボランティアセンター支援業務と事務局職員の中途離職があった点と、今年度は、地区の買い物サロン活動試行開始による支援訪問回数の増加が要因。なお、実訪問職員数は、今年度事務局が減員体制となり、前年度から1名減。

(2) 活動実績

①自治会の福祉活動支援(4地区)

○片田自治会(助成金額5万円)

- ・福祉部会の開催(6月・1月)
- ・夏休み子どもサロンの開催(7~8月)
- ・新年もちつき会の開催(2月)

○金田自治会(助成金額10万円)

- ・福祉活動検討会の開催(10月・12月・1月)
- ・移動支援活動の試行(1月~)
- ・防災マップの作成検討(1月~)
- ・買い物支援活動の試行(2月~)

- 小浜自治会（助成金額2万円）
 - ・サロン活動立上げ検討（11月）
 - ・サロン活動実施（12月～）
- ニュー早島自治会（助成なし）
 - ・福祉活動の検討（9月）
- ②職員訪問による地区福祉活動の支援
 - 訪問回数：72回（事務局職員：70回／介護支援専門員：6回）
 - 実訪問職員数：9名（事務局職員：5名／介護支援専門員：4名）
 - 延べ訪問者職員数：109名（事務局職員：101名／介護支援専門員：8名）

6. 福祉啓発（教育）の推進

〔1〕夏のボランティア体験事業

（1）要点

- ・夏季休暇期間を活用して、学生（中学・高校・大学等）や地域住民の方を対象に、町内の福祉（教育）施設やボランティア団体の方々に、体験希望者の受入れの協力をいただき実施。体験終了後に、体験の振り返りを目的とした事後研修会を実施した。
- ∴体験者数が217名（前年度比▲27名）と減少した。早島中学校の体験者が前年に比べ29名の減少。募集準備の遅れが原因であり、改善が必要。

（2）実施結果

①事前説明会

開催年月日	令和元年7月6日（土）
開催場所	早島中学校ランチルーム
内容	ボランティア体験における心構え・注意事項の説明
参加者	190名 <参加者内訳> 体験希望者162名、受入施設・団体関係者18名、中学校職員1名、社協職員9名

②ボランティア体験期間

体験期間	令和元年7月20日（土）から8月25日（日） ※夏季休暇期間
受入団体	15機関・団体（実受入：15機関・団体数）
協力団体	<福祉（教育）施設> 計10機関 早島幼稚園／早島保育園／かんだ保育園／わかみや保育園／早島児童館／早島町地域活動支援センター／早島町デイサービスセンター／特別養護老人ホーム白亜館／早島町生涯学習課／岡山県立早島支援学校／ <ボランティア団体> 計5団体 早島いぐさ手話サークル／早島要約筆記サークル‘ぺんしる’／パソボラはやしま／はやしま朗読ボランティア福来朗／はやしま本だいすきの会
体験者数	217名 <体験者内訳> 中学生153名、高校61名、大学生3名
体験案内校	16校 <中学校> 計1校 早島中学校／山陽女子中学校／清心中学校

	※山陽女子・清心中学校は、町内在住者 <高等学校> 計11校 岡山県立倉敷天城高等学校／岡山県立倉敷青陵高等学校／岡山県立倉敷中央高等学校／岡山県立倉敷南高等学校／岡山県立倉敷古城池高等学校／岡山県立倉敷商業高等学校／倉敷高等学校（私立）／ノートルダム清心学園・清心女子高等学校（私立）／就実高等学校（私立）／精華学園高等学校（私立）／明誠学院高等学校（私立） <短期大学・大学> 計2校 中国学園大学・中国短期大学／ノートルダム清心女子大学
--	---

③事後研修会

開催年月日	令和元年8月23日（金）
開催場所	早島中学校ランチルーム
内 容	体験の振り返り（グループワーク）
参加者	67名 <参加者内訳> 体験者54名、受入施設・団体関係者7名、中学校職員1名、社協職員5名

〔2〕福祉教育への協力支援

1) 要 点

- ・早島小学校から要請を受け、早島支援学校生徒との交流に向け、その導入として4年生を対象に体験教室を実施した。
- ・早島中学校から要請を受け、総合学習（福祉）の一環として、1年生の希望者を対象とした、「福祉」訪問探求学習の受け入れを2日に分け実施した。
- ∴小学4年生を対象とした出前車イス体験では、体験学習を通して車椅子の操作方法を学習すると同時に、車椅子を利用する当事者への共感・視点取得を促した。
- ∴中学1年生を対象とした「福祉」訪問探求学習では、施設見学及び職員へのインタビューを通して、福祉に対する気づきを促した。

(2) 実施結果

①出前車イス体験教室

開催年月日	令和元年6月10日（月）
開催場所	早島小学校体育館
内 容	車椅子の基本操作の説明や体験
参加者	小学4年生154名、小学校教員5名、社協職員3名

②「福祉」訪問探求学習（1日目）

開催年月日	令和元年11月1日（金）
開催場所	（前半）早島町デイサービスセンター （後半）地域福祉センター「オアシス早島」1階ボランティア室
内 容	（前半）施設見学、高齢者福祉に関するインタビュー （後半）障がい者福祉に関するインタビュー
参加者	（前半）中学1年生5名、中学校教員1名、社協職員2名 （後半）中学1年生10名、中学校教員1名、社協職員1名

③「福祉」訪問探求学習（2日目）

開催年月日	令和元年11月13日（水）
開催場所	地域福祉センター「オアシス早島」1階ボランティア室
内 容	施設見学、障がい者福祉に関するインタビュー
参加者	中学1年生5名、中学校教員1名、社協職員1名

〔3〕コミュニケーション麻雀普及推進

（1）要 点

- ・ 多人数が楽しめ仲間づくりや介護予防活動に役立つ『コミュニケーション麻雀』の普及と新たな地域活動参加者（普及員）発掘を目的に月2回『コミュニケーション麻雀を楽しむ会』を開催した。
- ∴『コミュニケーション麻雀を楽しむ会』を21回（前年度比▲3回）開催し、延べ399名（前年度比+16名）が参加した。
- ∴依頼のあった団体（5団体（前年度比▲1団体）・102名参加（前年度比+11名）へ普及員の派遣を行った。
- ∴倉敷市で活動する『コミコミ麻雀を広める会』と交流、情報交換を行った。

（2）実施結果

	普及行事名等	参加者数	備 考
4月	楽しむ会（2回）	34名	定例会
5月	楽しむ会（2回）	35名	定例会
6月	楽しむ会（2回）	36名	定例会
7月	楽しむ会（2回）	35名	定例会
	中山ふれあいサロンさつき会	14名	ふれあいいきいきサロン
8月	楽しむ会（2回）	34名	定例会
9月	楽しむ会（2回）	33名	定例会
	片田ふれあいサロン	16名	ふれあいいきいきサロン
10月	楽しむ会（2回）	37名	定例会
	サロン矢尾	38名	ふれあいいきいきサロン
11月	楽しむ会（2回）	32名	定例会
	金田ふれあいサロンにじ	20名	ふれあいいきいきサロン
12月	楽しむ会（2回）	36名	定例会
1月	楽しむ会（2回）	33名	定例会
2月	楽しむ会（1回）	19名	定例会
	コミュニケーション麻雀交流会	33名	倉敷市の普及団体
	早島町身体障がい者福祉協会	14名	町内の福祉当事者団体
3月	楽しむ会（中止）	0名	定例会

〔4〕障がい者作品展の開催

(1) 要 点

- ・障害者週間にあわせ、障がい者の方の作品展を開催し、町民に対し、障がい者福祉への理解を深める機会とした。
- ∴出展者数（前年度比▲11名）及び出展作品数（前年度比▲13作品）は、前年度より減少。募集期間が前年度より1カ月短縮されたことが要因と考えられる。

(2) 実施結果

開催年月日	令和元年11月30日（土）から12月14日（土）
開催場所	早島町地域福祉センター
主 催	早島町社会福祉協議会
共 催	早島町身体障がい者福祉協会、早島町地域活動支援センター、早島つばさの会、ほのぼの会、難病の会 喜楽会
出展者数	28名（31作品）

〔5〕福祉映画会の開催

(1) 要 点

- ・住民協働での個別ケアや福祉活動の活性化へ向けた機運をより高めていく機会として、福祉や介護・医療等の幅広い関連分野をテーマとした映画会を開催した。
- ∴NPO法人岡山県介護支援専門員協会会長の堀部徹氏を招き、映画作品の紹介と合わせ、若年性認知症についての説明を上映前に実施した。
- ∴前年度より観客数は減少（前年度比▲13名）。本会や地域の福祉活動グループの紹介を効果的に行うには、間口の広い集客が必要だが、現状としては70代以上の高齢者が5割を超える偏った状況である。映画の題材、宣伝方法の精査が課題。

(2) 実施結果

開催年月日	令和2年2月1日（土）
開催場所	早島町町民総合会館「ゆるびの舎」文化ホール
主 催	早島町社会福祉協議会
共 催	早島町
協力団体	手話ボランティアいぐさ、はやしま朗読ボランティアグループ福来朗、早島要約筆記サークル‘ぺんしる’、パソボラはやしま、絵手紙ボランティアやまびこ、日曜大工ボランティアとんかち、コミュニケーション麻雀を広める会、運転ボランティアくるりん、給食ボランティアクローバー・コスモス・スプリング・たんぽぽ・マスカット・ひまわり会・スマイル若宮・市場撫子の会、民生児童委員協議会、福祉活動員協議会、特別非営利活動法人ふれあいネットはやしま、早島町婦人会、早島保護司会、早島町更生保護女性会、わが町の暮らしの応援団
映 画 名	「八重子のハミング」（若年性認知症）
観 客 数	416名（入場整理券399枚、当日発行整理券17枚） アンケート回収数（338名）

7. ボランティア活動の推進

〔1〕ボランティア保険の加入支援

(1) 要 点

- ・ボランティア活動する方が安心して活動できるよう、事故やけが、賠償責任等について補償するボランティア活動保険（実施主体：全国社会福祉協議会、受付窓口：市町村社協）の加入促進を図る。
- ∴前年度より加入者数は、団体加入（前年度比▲80名）、個人加入（前年度比▲79名）共に減少。今年度は南岡山医療センターボランティアの加入がなかったこと、前年度は西日本豪雨に起因する災害ボランティアの加入が多数あったことが要因。

(2) 加入者数計：561名

◇団体加入：333名（25団体）

◇個人加入：228名 ※夏のボランティア体験活動者数を含む

〔2〕福祉ボランティアグループ活動の支援

(1) 要 点

- ・福祉ボランティア団体への活動支援と活動費助成を行った。
- ∴代表者の交代が2団体。助成金申請時のボランティア数は前年度と同数。
- ∴「パソボラはやしま」と助成金未申請団体の「絵手紙ボランティアやまびこ」の活動体験会を3回開催支援（後者に新規体験者4名）。

(2) 実施結果

◆活動助成額合計：153,500円（5団体）

- ①パソボラはやしま、②早島要約筆記サークル‘ぺんしる’、③はやしま朗読ボランティア福来朗、④日曜大工ボランティアとんかち、⑤運転ボランティアくるりん

〔3〕ボランティア活動に関する相談・調整

(1) 要 点

- ・市内の在宅生活者やボランティア団体、各種機関や団体から要請を受け、年間を通じて、福祉ボランティア等の活動調整を行う。
- ∴個人相談は、生活支援を行う「暮らしの応援団」へ調整。依頼世帯数（+7世帯）及び調整件数（+147件）ともに前年度より大幅増加。内新規依頼世帯は12世帯。
- ∴団体相談は、様々な特技ボランティア個人や団体を調整。新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてのサロン活動等の自粛で調整件数は減少（前年度比▲8件）。

(2) 調整件数

○個人相談（個人の生活を支援する人材の調整件数）

相談者（世帯数）	依頼事項等	調整内容	調整件数
生活困窮世帯（3世帯）	食事づくり・家屋内の整理	生活支援ボランティアの派遣調整	14件
独居高齢者（13世帯）	ゴミ出し・買い物代行・話し相手・家屋の修繕等	生活支援ボランティアの派遣調整	274件
高齢者世帯（2世帯）	家屋内外の修繕	生活支援ボランティアの派遣調整	5件
複合課題世帯（3世帯） ※複数の課題がある世帯	家屋内外整理作業・家屋内の修繕・植栽整備	生活支援ボランティアの派遣調整	7件
同居世帯（4世帯） ※同居者が作業困難	家屋内外整理作業・家屋の修繕	生活支援ボランティアの派遣調整	3件
合 計			24世帯／303件

※地区内の助け合い活動（福祉部会や組合、福祉活動員）に調整した世帯が別に6世帯。
 ※福祉有償運送事業（P.21）及び年末大掃除お助け活動（P.28）の調整数は除く。
 ○団体相談（団体や組織活動を支援する人材や作業の調整件数）

相談元（団体数）	行事名、依頼事項等	調整内容	調整件数
町内教育機関 （2団体）	授業への協力	車いす体験の指導 朗読ボランティアの 派遣調整	8件
町内医療機関 （1団体）	つくし病棟での 本の読み聞かせ	朗読ボランティアの 派遣調整	8件
町内福祉施設 （0団体）	プログラム企画協力	講師等ボランティアの 派遣調整	0件
地区老人クラブ （1団体）	プログラム企画協力	講師等ボランティアの 派遣調整	1件
地区サロン活動 グループ （16団体）	プログラム企画協力	講師等ボランティアの 派遣調整	36件
	送迎調整協力	運転ボランティアの 派遣調整	58件
給食ボランティア グループ （6団体）	プログラム企画協力	講師等ボランティアの 派遣調整	1件
	送迎調整協力	運転ボランティアの 派遣調整	163件
福祉当事者グループ （0団体）	プログラム企画協力	講師等ボランティアの 派遣調整	0件
合 計			26団体/275件

※本会デイサービスセンターが調整をした件数は除く。通所介護事業（P.37）参照。

〔4〕 ボランティア活動の人材発掘 **新**

（1）要 点

- ・福祉活動員や地区サロン活動者、給食や福祉ボランティアグループ等、流動的な町内の福祉活動の担い手や後継者の確保に向けた人材発掘を行う。
- ・新たな活動分野の講習会や既存活動の体験会を開催し、人材発掘を行う。
- ∴7月に「福祉有償運送事業運転者講習会」を特定非営利活動法人移動ネット岡山と共催で開催。県内受講者33名中町内受講者5名が事後に運転ボランティア活動に参画。
- ∴事務局を務める月例「暮らしの応援カフェ」における勉強会や地区活動の立案により、地区内での生活支援活動者が増加した。

（2）実施結果

分 野	具体的取組み	新規所属団体	新規人数
福祉活動員	自治会への推薦依頼	福祉活動員協議会	18名
地区サロン活動者	新規サロン活動立上げ支援	すまいるサロン小浜	7名
給食ボランティア	地区訪問による後継者募集	クローバー	5名
福祉ボランティア	福祉有償運転者講習会開催	運転ボランティアくるりん	5名
生活支援活動者	勉強会・新規地区活動立案	暮らしの応援団	18名
合 計			53名（重複者含む）

8. 福祉団体活動の支援

〔1〕福祉当事者団体の支援

(1) 要 点

- ・当事者団体への活動支援と活動費助成を行った。
- ∴前年度より活動助成額合計は減少（前年度比▲9, 936円）。早島町身体障がい者福祉協会（前年度比▲5名）、ブロンズクラブ（前年度比▲2名）の会員登録者数の減少が要因として考えられる。

(2) 実施結果

- ◆活動助成額合計：380, 400円（3団体）
 - ①早島町身体障がい者福祉協会、②早島つばさの会（知的障がい児者の親の会）、③ブロンズクラブ（独居高齢者の会）

〔2〕福祉団体の支援

(1) 要 点

- ・福祉団体への活動支援と活動費助成を行った。
- ∴前年度と助成団体及び各団体の会員数に変化はなく、活動助成額合計も前年度と同額の助成となった。

(2) 実施結果

- ◆活動助成額合計：172, 000円（2団体）
 - ①早島保護司会、②早島町更生保護女性会

9. 在宅福祉サービス事業の実施

〔1〕福祉有償運送事業の実施

(1) 要 点

- ・要介護高齢者や障がいある方のうち、自力で公共交通機関を利用できない方を対象に、有償（タクシー料金の概ね半額）で、ご自宅から目的地までの送迎外出支援を「福祉車両」によりを行う。
- ・運行毎次の使用車両の運行前点検と登録運転手の体調確認及びドライブレコーダーによる実際の運行映像を活用し、月次の安全運転指導や研修を行った。
- ∴実利用者人数（前年度比▲5名）は減少したが、複数回利用の利用者増加により運行回数（前年度比+60回）は増加した。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆実利用者数 18人（前年度比▲5人）
- ◆延べ運行回数 130回（前年比+60回）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	実利用者数	運行回数	利用料収入(円)
4月	2人	2回	3,200円
5月	1人	1回	1,990円
6月	3人	13回	9,070円
7月	4人	18回	10,540円
8月	3人	11回	5,490円
9月	5人	9回	13,210円
10月	5人	7回	6,790円
11月	5人	15回	10,030円
12月	5人	5回	9,160円
1月	8人	13回	14,710円
2月	7人	19回	14,830円
3月	7人	17回	18,030円
合計	55人	130回	117,050円

〔2〕福祉用具貸出サービスの実施

(1) 要 点

- ・介護が必要な状態にある方への介護用具の貸し出しを行う。介護認定を受け、介護保険サービス内で利用できる方は、対象外とする。
- ・旅行等の外出目的での車いす短期貸出が、例年より更に増加(前年度比+27件)。
- ・本会介護事業部利用者以外への貸し出し実利用者数16人(前年度比+9人)。
- ・本会ホームページ閲覧で事業を知った新規利用者も増えており、ソーシャルメディアサービスによる情報発信の効果と、必要性が感じられた。

(2) 利用実績

①実利用者数

46人(前年度比+3人) ※別に2団体へ貸出。

②貸出品目と件数

介護用具名	貸出件数
車いす	112件
リクライニング車いす	2件
スロープ	6件
ポータブルトイレ	3件
シルバーカー	6件
点滴スタンド	2件
家庭用コードレスチャイム	6件
シャワーチェア	6件
杖	1件
合計	144件(前年度比+20件)

10. 福祉相談及び福祉サービスの利用援助

〔1〕生活福祉資金貸付

(1) 要点

- ・低所得者世帯の経済的自立や身体障がい者世帯の生活意欲の助長促進及び、在宅福祉、社会参加の促進のために必要な資金を貸付けるために、生活福祉資金貸付事務（実施主体：岡山県社会福祉協議会、受付窓口：市町村社協）を行った。
- ・相談件数4件の内、新規貸付となったケースは0件。前年度から継続して教育支援資金の償還者は10月で償還を完了。
- ・新型コロナウイルスの影響による特例貸付の相談を3月に1件受付。

(2) 対応実績（令和2年3月31日現在）

貸付資金種類	相談件数	新規貸付	貸付中	償還中
総合支援資金	1件	0件	0件	0件
福祉資金	3件	0件	0件	0件
教育支援資金	0件	0件	0件	0件
不動産担保型生活資金	0件	0件	0件	0件
※旧・離職者支援資金	-	-	-	1件
合計	4件	0件	0件	1件

〔2〕日常生活自立支援事業

(1) 要点

- ・在宅で生活しており、自分の判断で福祉サービスの利用や日常的な金銭管理を適切に行うことが困難な方をサポートする本事業（実施主体：岡山県社会福祉協議会）の相談対応や援助業務を行った。
- ・3月に新規契約があり、町内で4名の障がい者の方の利用がある。

(2) 対応実績（令和2年3月31日現在）

援助区分	新規相談	新規契約	援助中	契約解除
認知症高齢者	0件	0件	0件	0件
知的障がい者	0件	0件	1件	0件
精神障がい者	0件	0件	2件	0件
その他	1件	1件	1件	0件
合計	1件	1件	4件	0件

11. 地域福祉センターの運営管理

〔1〕施設利用の促進

(1) 要点

- ・町内の地域福祉活動拠点として、福祉関係者を中心にセンター内の施設（4部屋、開放フロア）の貸し出しと管理運営を行った。
- ・前年度よりプレイルームの延べ利用者数は大幅に減少（▲288人）。インフルエンザによる学級閉鎖及び新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、12月以降小学生の利用を中止していたことが要因。

(2) 団体利用実績

施設名	利用回数	利用人数	平均利用人数
ボランティア室	87回	460人	5.3人
調理実習室	53回	820人	15.5人
会議室	137回	2,839人	20.7人
プレイルーム	145回	1,238人	8.5人
開放フロア	13回	73人	5.6人

(3) 個人利用実績（プレイルームのみ）

◆延べ利用者数：500人（小学生のみ）

〔2〕 備品・用具の貸出

(1) 要 点

- ・町内の地域福祉活動の活性化のため、福祉活動に役立つ備品・用具の貸出しを行った。
- ・前年度と比較して貸出件数の総数に大きな変動は見られなかった（前年度比▲4件）。
- ・利用団体はサロン関係者及び行政関係者が大半であるが、今年度より新たに法人連携による保育園への用具の貸出が増加。

(2) 利用実績

援助区分	合 計	福祉関係団体	行政関係団体	その他
レクリエーション用具	37件	32件	5件	0件
機材	12件	11件	1件	0件
その他	12件	11件	1件	0件

〔3〕 施設改修の実施

(1) 要 点

- ・老朽化する施設内の空調設備の予防修繕と時計台の時計の修繕を行った。
- ・空調設備の予防修繕優先度の高いシステムについては実施できた。優先度の低いシステムを引き続き計画的に予防修繕を行っていく。

(2) 改修実績

①設備修繕

- ・空調設備の修繕（3機）
- ・時計台の時計修繕

Ⅲ. 介護サービス事業

1. 居宅介護支援事業

〔1〕 介護保険-居宅介護支援事業の実施

(1) 要 点

- ・利用契約を結んだ要介護状態の方に対し、ご本人やご家族の意思を尊重しながら、介護・保健・医療・福祉サービスを適切に利用することができるよう、個別の居宅サービス計画の作成や事業者等との調整を行った。
- ・サービス利用以外の時間帯にも安心した在宅生活が過ごせるよう、介護保険制度以外にも民生委員・福祉活動員との個別に情報共有を行うとともに、住民による生活支援活動試行への積極的な誘導を図った。

- ∴主任介護支援専門員を中心として、支援経過記録に関する内部研修を開催。定型的な工程には新たに文例を取り入れる等、事務作業にかかる時間の効率化を図った。
- ∴下半期の件数低迷は、職員体制の不確定要素が多く、新規相談を断らざるを得ない期間があったことが要因。前年度より月間平均請求件数は減少（前年度比▲3件）したが、一人当たりの月間平均担当件数は、34件（前年度比+2.9件）と増加。職員の拡充含め、体制整備が課題。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規契約利用者：54件（前年度比+1件）
- ◆年間契約解除利用者：67件（前年度比+1件）
- ◆月間平均請求件数：187件（前年度比▲3件）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	件数	収入(円)
4月	184件	2,877,520円
5月	194件	3,056,770円
6月	194件	3,033,770円
7月	192件	3,015,410円
8月	188件	2,933,640円
9月	195件	3,050,000円
10月	189件	2,943,730円
11月	187件	2,923,590円
12月	184件	2,860,380円
1月	181件	2,817,830円
2月	178件	2,787,140円
3月	175件	2,730,930円
合計	2,241件	35,030,710円

〔2〕介護保険-介護予防居宅介護支援事業の実施【早島町受託事業】

(1) 要点

- ・利用契約を結んだ要支援状態の方に対し、ご本人やご家族の意思を尊重しながら、介護予防・保健・医療・福祉サービスを適切に利用することができるよう、個別の介護予防支援サービス計画の作成や事業者等との調整を行った。
- ∴昨年度に続き、介護支援専門員1名が計画作成を担当。介護予防に焦点を当てた内部研修の開催や、個別ケア会議に全職員が関わることで、課題や悩みを相談しやすい環境基盤を整備。担当者の心理的負担の軽減に配慮した。
- ∴契約解除利用者11件のうち、2件は状況改善。介護予防給付を終了した後、地域の健康体操教室などに移行。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規契約利用者：11件（前年度比▲5件）
- ◆年間契約解除利用者：11件（前年度比▲1件）
- ◆月間平均請求件数：42.8件（前年度比+2.5件）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	件数	収入(円)
4月	43件	184,900円
5月	44件	189,200円
6月	44件	189,200円
7月	41件	179,300円
8月	38件	163,400円
9月	40件	172,000円
10月	41件	179,700円
11月	42件	184,010円
12月	47件	214,550円
1月	46件	201,250円
2月	43件	185,330円
3月	44件	189,630円
合計	513件	2,232,470円

※本事業担当介護支援専門員の人件費を町受託金で受けており、本事業収入は、国民健康保険団体連合会から早島町へ給付される。

2. 通所介護事業

〔1〕介護保険-通所介護事業の実施

(1) 要点

- ・通所介護サービスの利用により、介護が必要な高齢者の心身の機能の悪化を防止するとともに、利用者が以前と変わらず自宅で生活でき、趣味活動や人との交流のある生活を維持できるよう支援する。
- ・介護をしている家族の心身の負担を軽減する。
- ・例年実施しているアンケート調査で、デイサービスを利用した効果について、良い効果があったとの回答が83%だった。(内、家族の負担が減った20%)
- ・介護職員が、パート募集では人が集まらず正規職員として採用を続け、人員は整っている。しかし、援助内容については、落としがや気づき不足があり、手が行き届かない状況であったため新規利用者の受け入れを制限した。結果、2年連続で赤字になり、経営状態の改善が急務となっている。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規利用者： 13人(前年度比+7人)
- ◆年間延べ利用者数：7,558人(前年度比▲251人)

(3) 利用状況及び収入の推移(要介護1～5の利用者)

サービス月	開所日数	実利用者数	延利用者数	1日平均利用者数	収入(円)
4月	26日	53名	599名	23.0	4,923,320円
5月	27日	52名	639名	23.6	5,202,630円
6月	25日	53名	595名	23.8	4,803,680円
7月	27日	50名	627名	23.2	4,965,950円
8月	27日	48名	564名	20.8	4,542,480円

9月	25日	50名	566名	22.6	4,542,780円
10月	27日	54名	691名	25.5	5,530,470円
11月	26日	53名	629名	24.1	5,123,340円
12月	24日	49名	581名	24.2	4,994,270円
1月	24日	54名	636名	26.5	5,040,860円
2月	25日	55名	680名	27.2	5,463,240円
3月	26日	56名	751名	28.8	6,083,190円
合計	309日	627名	7558名	24.4人	61,216,210円

※1日平均人数は、小数点第2位以下切捨て。

※1日平均人数の合計は、年間延べ人数を開所日数で除した数値を記載。

〔2〕介護予防・日常生活支援総合事業の実施

(1) 要 点

- ・介護予防・日常生活支援総合事業対象者に対して、利用者が要介護状態になることを予防し、心身ともに自立した生活を維持できるよう支援する。
 - ・高齢者を支える家族の生活を支援する。
- ∴年間の利用者11人中8人（7割）が要介護状態になることを予防できた（要支援の介護度状態が維持できた）。

(2) 利用状況等実施結果

◆年間新規利用者： 7人（前年度比 +6人）

◆年間延べ利用者数：466人（前年度比+101人）

(3) 利用状況及び収入の推移（要支援1～2の利用者）

サービス月	開所日数	実利用者数	延利用者数	1日平均利用者数	収入(円)
4月	26日	4名	30名	1.1	137,490円
5月	27日	4名	32名	1.1	137,490円
6月	25日	4名	26名	1.0	137,490円
7月	27日	4名	31名	1.1	137,490円
8月	27日	4名	29名	1.0	137,490円
9月	25日	5名	31名	1.2	155,230円
10月	27日	6名	45名	1.6	216,560円
11月	26日	7名	52名	2.0	236,920円
12月	24日	10名	60名	2.5	333,320円
1月	24日	8名	43名	1.7	238,400円
2月	25日	7名	40名	1.6	215,690円
3月	26日	8名	47名	1.8	257,280円
合計	309日	71名	466名	1.5人	2,340,850円

※1日平均人数は、小数点第2位以下切捨て。

※1日平均人数の合計は、年間延べ人数を開所日数で除した数値を記載。

〔3〕介護保険外サービス事業の実施

(1) 要 点

- ・利用登録者を対象に、社会参加の促進と生き甲斐づくりを目的に、介護保険外の事業として、長期入院者等が一時帰宅した際の介護保険外デイサービスの提供と、要支援に該当する者の入浴サービスの提供と、日帰り旅行を実施した。
- ∴介護保険外のデイサービス及び入浴サービスの利用はなかった。
- ∴日帰り旅行は、参加人数が前年度より減少したが、参加者からは「来年も参加したい」、「元気なら参加したい」との回答があった。

(2) 活動実績

○日帰り旅行

開催年月日	令和元年 11月 10日 (日)
行き先	赤穂城・備前海の駅
参加者	利用者 22名・家族 3名・ボランティア 1名・職員 18名

〔4〕ボランティア協力（受入）の実施

(1) 要 点

- ・演芸ボランティアを始め、季節行事や日常的プログラム支援としてボランティア受け入れをし、デイサービスで過ごす時間の充実を図る。
- ・ボランティア受入により、住民と利用者との交流の場としての役割を担う。
- ・ボランティア活動を希望する住民や学生を受け入れ活動の場を提供する。
- ∴2月までは例年どおりボランティアの協力が得られた。3月以降、新型コロナウイルス感染防止対策のため、外部からの立ち入りを制限し、予定していた慰問と餅つきを中止した。餅つきについてはインフルエンザ流行時期を外して、3月に予定していたが、今後は感染症が少ない時期の開催を検討する。

(2) 実施結果

新規協力は3団体、個人2名。

◇ボランティア来館数

月	プログラム提供		行事補助 (延べ人数)	ボランティア体験 (延べ人数)
	個人活動	団体数		
4月	1名	6団体		
5月	2名	5団体		
6月	1名	5団体		
7月	1名	2団体	夏祭り(8人)	夏ボラ(4人)
8月	1名	3団体		夏ボラ(11人)
9月	1名	5団体		
10月	2名	4団体	日帰り旅行(1人)	
11月	1名	3団体		
12月	1名	5団体		
1月	1名	3団体		
2月	1名	5団体		
3月	1名	1団体		
合計	14名	47団体	9人	15人

◇個人ボランティアの活動内容（有償の活動は除く）

活動内容	活動人数
アコーディオン演奏	1名
将棋相手	1名
話し相手	1名
整髪・配膳・お茶だし等の補助	2名
畑や花の手入れ	2名

◇団体ボランティアの活動内容（有償の活動団体は除く）

団体名	活動内容（今年度活動回数）	延べ活動者数
華扇会◎	踊り（2回）	12名
コーラスフルール	コーラス（1回）	24名
コーラス ブルークレース◎	コーラス（1回）	17名
じゃがいもの会	歌と踊り（1回）	6名
セブンティーズ◎	演奏（1回）	11名
日本訪問歯科協会 原歯科医院	お口の健康相談会（4日間）	8名
ねねの会	三味線演奏と歌（2回）	9名
野の花の会	七宝焼き（1回）と創作案提供	4名
早島オカリナ倶楽部	オカリナ演奏（2回）	15名
はやしま本だいすきの会	朗読会（1回）	7名
早島要約筆記サークル ‘ぺんしる’	OHPを使った俳句の紹介（12回）	26名
はやしま朗読ボランティア福来朗	朗読（12回） 行事補助（4日間）	20名
備前鳴子屋	うらじゃ踊り（1回）	14名
百鬼会	節分に鬼装束で来館（1回）	14名
プアラニラフラダンス	フラダンス（1回）	9名
ほのぼの会	踊りと歌（6回）	38名
舞民踊同好会	踊りと歌（2回）	23名
マーラプア・フラ	フラダンス（2回）	14名
モイス合唱団	合唱（3回）	32名
若竹会・早島日本舞踊子供教室	踊り（1回）	20名
若宮フラガールズと若宮一座	フラダンス・傘踊り（1回）	16名

※◎は新規協力団体

3. 訪問介護事業

〔1〕介護保険-訪問介護事業の実施

（1）要 点

- ・要介護状態になっても、利用者の望む暮らしができるよう、訪問により心身の状況に応じた身体介護（入浴、排泄、食事の援助等）や生活援助（調理、掃除、買い物等）、日常生活全般の援助を行った。
- ・気候のいい頃は例年だと入院している利用者が退院し訪問回数が増えるが、長期入院になったケースや、入れ替わるように別の利用者が入院するケースがあり訪問回数が激減した。また、新規利用者数が伸びず収入が前年度比で1,684千円減収となった。
- ・新規利用者を獲得する工夫とサービス見直しの提案を行う等の具体的対策が必要。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規利用者： 8件（昨年度比 ▲9件）
- ◆年間延べ利用者数： 436人（昨年度比 ▲73名）
- ◆年間延べ訪問回数： 5, 178回（昨年度比▲715回）

(3) 利用状況及び収入の推移（要介護1～5の利用者）

サービス月	実利用者数	訪問回数	訪問時間	収入
4月	37名	445回	367.17時間	1,434,590円
5月	37名	472回	386.30時間	1,531,280円
6月	35名	406回	324.00時間	1,304,570円
7月	35名	407回	341.48時間	1,279,980円
8月	35名	428回	362.80時間	1,367,800円
9月	38名	456回	387.22時間	1,547,130円
10月	36名	443回	374.23時間	1,447,270円
11月	35名	405回	350.22時間	1,322,730円
12月	35名	421回	362.70時間	1,363,300円
1月	37名	405回	347.75時間	1,331,060円
2月	37名	414回	361.50時間	1,367,060円
3月	39名	476回	416.50時間	1,523,620円
合計	436名	5, 178	4,381.86時間	16,820,390円

〔2〕介護予防・日常生活支援総合事業の実施

(1) 要点

- ・介護予防・日常生活支援総合事業対象者を対象に、自立に向けた生活機能の向上を目的とした支援を行った。
- ∴週3回利用の要介護利用者が介護保険の更新により要支援となったケースが複数あり、訪問回数が伸び収入が前年度比 1,248 千円増加となった。
- ∴早島町地域包括支援センターに確認しながら新規利用者を受けていきたい。

(2) 利用者状況等実施結果

- ◆年間新規利用者： 8件（昨年度比 +4件）
- ◆年間延べ利用者数： 200名（昨年度比 +33名）
- ◆年間延べ訪問回数： 1, 529回（昨年度比+416回）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	実利用者数	訪問回数	訪問時間	収入
4月	16名	128回	115.25時間	401,950円
5月	18名	141回	127.50時間	436,670円
6月	17名	124回	112.50時間	431,400円
7月	16名	127回	117.50時間	392,540円
8月	16名	117回	109.25時間	411,450円
9月	16名	122回	112.00時間	409,250円
10月	16名	133回	122.00時間	421,011円
11月	17名	139回	127.25時間	436,290円
12月	18名	128回	118.25時間	438,080円

1月	18名	131回	121.25時間	444,500円
2月	16名	114回	105.50時間	395,380円
3月	16名	125回	114.25時間	384,710円
合計	167名	1,529回	1,402.50時間	5,003,231円

〔3〕介護保険外サービス事業の実施

(1) 要 点

- ・介護保険制度適用外で、日常生活に援助が必要とする方に、介護保険制度を同様のサービス（家事援助、身体介護）に加え、制度では行えないサービス（見守りを兼ねた話し相手等）を行い、安心して日常生活を営む事が出来るよう援助を行った。
- ∴定期利用者が他サービスへ移行したことにより、減収となったが、新規利用者が5名あった。今後も介護支援専門員等と連携し必要に応じ対応していきたい。
- ∴住民主体の見守り活動（民生委員や福祉活動員等）や生活支援活動（暮らしの応援団）と連携し、役割分担をし、専門性の必要な利用者の方を重点的に支援していきたい。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規利用者： 6件（昨年度比 ▲1件）
- ◆年間延べ利用者数： 61名（昨年度比▲21名）
- ◆年間延べ訪問回数： 159回（昨年度比▲58回）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	実利用者数	訪問回数	訪問時間	収 入
4月	6名	18回	14.5時間	36,223円
5月	5名	11回	10.0時間	24,684円
6月	2名	6回	5.0時間	12,452円
7月	6名	15回	14.5時間	35,816円
8月	5名	13回	11.5時間	28,490円
9月	6名	14回	12.5時間	32,824円
10月	5名	15回	14.5時間	35,629円
11月	6名	14回	13.5時間	35,002円
12月	6名	15回	14.5時間	39,182円
1月	6名	15回	11.0時間	29,810円
2月	4名	10回	11.0時間	27,170円
3月	4名	13回	13.0時間	31,856円
合計	61名	159回	145.5時間	369,138円

〔4〕 障がい者総合支援-居宅介護事業の実施

(1) 要 点

- ・総合支援法の趣旨に沿って、住み慣れた地域で安心して自立した日常生活ができるよう、障がいの特性・心身の状態に配慮しながら身体介護・家事援助・通院介助等の日常生活全般の援助を行った。
- ・新規利用1名とサービスの追加により収入が前年比+404千円となった。
- ・障がい者のサービスの需要が徐々に増えているが、障がい特性を理解できる訪問介護員が少ないため、内部研修を行い全体の底上げを行う必要がある。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規利用者： 1件（昨年度比+1件）
- ◆年間延べ利用者数：105名（昨年度比+21名）
- ◆年間延べ訪問回数：941回（昨年度比+195回）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	実利用者数	訪問回数	訪問時間（時間）				収入
			身体	知的	精神	合計	
4月	8名	62回	7.00	43.50	21.00	71.50	227,910円
5月	9名	84回	15.00	45.00	33.25	93.25	300,250円
6月	9名	85回	14.75	42.50	28.50	85.75	264,190円
7月	9名	85回	13.00	44.00	33.00	90.00	274,450円
8月	9名	79回	10.75	44.50	25.50	80.75	251,640円
9月	9名	62回	12.00	40.00	11.75	63.75	208,960円
10月	8名	79回	9.25	42.00	28.50	79.75	139,190円
11月	9名	78回	9.00	49.50	37.00	95.50	371,200円
12月	9名	76回	14.00	42.00	26.75	82.75	245,500円
1月	9名	73回	13.25	41.50	27.00	81.75	243,960円
2月	9名	86回	15.75	44.50	31.25	91.50	273,990円
3月	9名	92回	16.75	45.50	34.25	96.50	287,170円
合 計	84名	941回	150.50	524.50	337.75	1012.75	3,088,410円

〔5〕 障がい者総合支援-重度訪問介護事業の実施

(1) 要 点

- ・総合支援法の趣旨に沿って、重度の障がいにより行動上著しい困難がある方に対し、住み慣れた地域で安心して自立した日常生活ができるよう、障がいの特性・心身の状態に配慮しながら身体介護・家事援助等の日常生活全般の援助を行った。
- ・従来から事業登録をしていたが、今年度初めて利用者があった。
- ・痰吸引の有資格者がいないことと、長時間の利用者に対する対応が現状の人員では困難である。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規利用者：1件（昨年度比+1件）
- ◆年間延べ利用者数：2名（昨年度比+2名）
- ◆年間延べ訪問回数：8回（昨年度比+8回）

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	実利用者数	訪問回数	訪問時間(時間)				収入
			身体	知的	精神	合計	
4月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
5月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
6月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
7月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
8月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
9月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
10月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
11月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
12月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
1月	0名	0回	0.00	0.00	0.00	0.00	0円
2月	1名	4回	8.00	0.00	0.00	8.00	20,410円
3月	1名	4回	7.00	0.00	0.00	7.00	15,880円
合計	2名	8回	15.00	0.00	0.00	15.00	36,290円

〔6〕 障がい者総合支援-移動支援事業(外出支援)の実施

(1) 要点

- ・総合支援法の趣旨に沿って、住み慣れた地域で自分らしく生活するために、安全に外出できるよう障がいの特性・心身の状態に配慮しながら移動(外出)支援を行った。
- ・新規の利用者が2名(買い物支援と地区活動参加)あったが、定期利用には至っていない。
- ・報酬単価が低い為、収益につなぐににくいことが課題である。

(2) 利用状況等実施結果

- ◆年間新規利用者： 2名(昨年度比 2名)
- ◆年間延べ利用者数： 30名(昨年度比 +5名)
- ◆年間延べ訪問回数： 208回(昨年度比 ▲8回)

(3) 利用状況及び収入の推移

サービス月	実利用者数	訪問回数	訪問時間(時間)				収入
			身体	知的	精神	合計	
4月	2名	19回	21.5	0.0	0.0	21.5	44,250円
5月	2名	17回	32.5	0.0	0.0	32.5	48,750円
6月	2名	15回	22.5	0.0	0.0	22.5	33,750円
7月	2名	16回	28.5	0.0	0.0	28.5	42,750円
8月	2名	15回	23.5	0.0	0.0	23.5	35,250円
9月	2名	17回	27.0	0.0	0.0	27.0	40,500円
10月	3名	19回	28.0	0.0	0.0	28.0	44,000円
11月	3名	17回	26.0	0.0	0.0	26.0	40,250円
12月	3名	15回	21.0	0.0	2.5	23.5	37,500円

1月	3名	14回	24.0	0.0	0.0	24.0	38,000円
2月	3名	17回	27.5	0.0	1.0	28.5	43,750円
3月	3名	19回	30.0	0.0	2.0	32.0	50,000円
合計	30名	200回	312.5	0.0	5.5	317.5	498,750円